

リスクコミュニケーションの進め方（案）について

～ 第 1 回から第 4 回の懇談会で出た意見等から ～

項目	内容	
参加者	○ 市民、事業者、行政 ○ ファシリテーター¹ ・ 質問しやすい立場の方 ○ インタープリター² ・ ファシリテーターとの兼務も可（両役割は専門性が異なることに留意） 1 中立的立場から議論を整理する司会の役割をする方 2 中立的立場で理解しにくい情報をわかりやすく説明できる方	
場所	○ 工場（又は工場及び地域） ・ 工場を見るために、一度は工場で行う。 ・ あらかじめ地域で化学物質に関して理解を深める場があるとよりよい。	
プログラム	○ 工場見学を盛り込む。 ○ お互いにどんなことを考えているかを確認する場を設ける。 ○ 身近な化学物質のリスクについて理解するための機会を設ける。	
工場からの説明	説明の方針	○ 事業者が提供したい情報や参加者の求めている情報をうまく組み立て、わかりやすく説明する。
	取り上げる内容の例	○ 工場の概要（作っている製品など） ○ 環境方針や工場の特徴 ○ 化学物質に関する内容 ・ 全体の工程と物質収支のフロー ・ 削減目標と目標に対する具体的な見通し ・ 削減のための対策とその効果 ・ リスクに関する情報（特に基準値のある物質について） ・ 周辺地域のデータとの比較 ○ 悪臭や騒音など市民の関心が高い内容 ○ 緊急時の対応と住民との連携 ○ 従業員の健康管理
	説明する際の留意点	○ 工場の生産品については、直接住民が目にする商品を取りあげて説明する。 ○ 化学物質はその物質がどんな物質であるか（用途など）を説明する。 ○ 専門用語はわかりやすく言い換える。

項目	内容	
		○ 市民が無用の不安を持っている可能性があることに留意する。 ○ 「空気が汚れている」「臭いがする」などの一般的な受け止め方を大事にする。 ○ 基準値（環境基準など）の意味を説明する。 ○ 工場のマイナス面も説明する。
	資料作成時の留意点	○ できるだけ図や写真などで表現する。 ○ 参考となるホームページのアドレスを記載する。
成果	○ 参加者同士が相互に理解を深めるとともに、今後のコミュニケーションのきっかけを作る。 ○ リスクコミュニケーションを行うメリットを出し合い、「取り組んでいこう」という機運を作っていく。 ○ モデルリスクコミュニケーションにおいては、事業者による自主的なリスクコミュニケーションを促進するために、情報発信をする。	